



内山瑞葵さん
平工業高校3年。生徒会長を務める。第8回太平洋・島サミット高校生応援隊として、PR活動や各国首脳たちのおもてなしの準備などに取り組む。

レポート 248

太平洋・島サミットをもっと知ってほしい

Q 第八回太平洋・島サミット高校生応援隊の活動を教えてください。
市内の高校生三十三人が、応援隊として活動しています。週一回、定例ミーティングを開催し、PR活動などの準備を進めています。大きな活動として、いわきサンシャインマラソンでのPRや、イベントの企画・運営を行いました。他にもツイッターを活用した情報発信などを行っています。
Q 活動を通してどのようなことを感じましたか。
私はステージイベント班として、イベントの企画・運営に取り組みましたが、自分たちで考えたものがイベントとして形になり、やりがいやうれしさを感じました。応援隊

と生徒会の両立や、限られた時間で準備するのはとても大変でしたが、応援隊のみんながいてくれたので、成し遂げることができました。
Q プレイベントで特に力を入れたことは何ですか。
参加国について紹介した寸劇と、来場者に参加してもらったクイズです。
見ている方に楽しんでもらえるような要素を入れながら、参加国について知ってもらえるよう、寸劇の台本を作りました。台本を作るため、まずはそれぞれの国の文化や抱えている問題などを勉強しました。
勉強していく中で、海面上昇やごみの問題など、島国である日本にも共通する課題が見えてきました。こうした課題をクイズにしたら、太平



いわきサンシャインマラソンのブースで歓迎旗作りなどを通してPRを実施

洋・島サミットにさらに興味を持ってもらえると思い、クイズの問題を考えました。
多くの方が来場し、イベントを楽しみながら理解を深めてくれたので、一生懸命準備して良かったと思いました。
Q 開催に向けて応援隊としての意気込みをお願いします。
せっかくいわき市で開催されるので、会議の意義や参加国について、さらに情報発信などを行い、多くの方に知ってもらいたいです。
参加国の皆さんに、いわき市が良いところだと伝わるように、おもてなしの準備を進め、今回の太平洋・島サミットが今まで以上に充実したものになるよう、応援隊一丸となって頑張っていきます。



クイズの司会を行う高校生応援隊の皆さん

地名の中の『いわき』

今につながる明治初期の合併①

江戸時代までの村は、地縁的なつながりを基本として、隣保共助性を持った自然発生的な歴史を歩んできました。しかし、新田開発などで村の人口が増え過ぎたため、年貢米の徴収の管理などができなくなったことによる「村切り」が行われ、藩の支配で村が分轄されるなど、住民には不都合が生じていました。これに対し、明治政府は不都合の是正



多くの水田が広がっていた現在の東田町〔昭和30(1955)年ごろ 勿来市撮影〕

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。

や、自治機能が十分でない人口の少ない村の解消を目指して、合併を促しました。主なものを挙げてみましょう。
泉崎村(上泉崎村・下泉崎村)、江栗村(前江栗村・後江栗村)、旅人村(出旅人村と入旅人村)などは、二つに分かれていた村が元に戻ったものでした。
一方、田部村(初田村、渡部村)、玉露村(玉崎村、甘露寺村)、東田村(東坂村、塩田村)、関船村(関村、上船尾村)などは、一字ずつを採って新たな村となりました。このうち、田部村は初田村と渡部村が江戸時代に同じ宿場であったことから、関船村は宿場であった上船尾村と、金刀比羅神社が立地している関村が密接なつながりを持っていたことから、合併しました。

現在の東田町や常磐関船町といった地名には、このような由来があったことをご存知でしたか。
(いわき地域学會 小宅幸一)
※いわき市内の昔の写真をお持ちで、提供いただける方は、ふるさと発信課(☎22・7503)までご連絡ください。

連載シリーズ

こんにちは市長室から 30



『一流に触れる!』

いわき市長 清水敏男

最近、市内では一流のものに触れることができる機会が数多くありました。
まず、ラグビー女子7人制日本代表チーム「サクラセブンズ」が、3月11日からいわき新舞子ヴィレッジにおいて、昨年に引き続き強化合宿を行い、地元の高校生ラグーマンと一緒に汗を流しました。
また、東京大学先端科学技術研究センターと本市は、再生可能エネルギー関連産業、特

に風力関連産業をテーマとした学術振興を図るべく、協定を締結することとしました。協定締結により、同センターが有する知見やネットワークとの学術連携が可能となります。
文化・芸術面でも、世界的な展覧会が開催中です。5月6日まで、世界を魅了する動く芸術「テオ・ヤンセン展inふくしま2018」が、アクアマリンふくしまにおいて東北で初めて開催されており、多くの来場者に感動を与えています。
そして、4月14日から5月27日まで、世界的な絵本作家である「エリック・カール展」を市立美術館で開催します。
今後も、市民の皆さんが、一流のスポーツや科学技術、文化・芸術に触れる機会を数多く創出してまいります。